

研究主題 よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

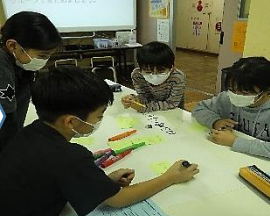
～「B衣食住の生活」の授業実践を通して～

I 研究主題について

今後の社会を担う子供たちには、家族・家庭生活や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、社会の急激な変化に対応できる力が求められている。一人一人が自立し、家族や地域の人々と共に支え合い、よりよい生活を創造することが必要である。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎に必要な力として、小学校家庭科では、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指している。

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決するために、知識・技能を身に付け、それらを活用する学習過程において、家庭科ならではの「見方・考え方」を働かせて、思考・判断・表現することが重要となる。これらは家庭生活を大切にする心情や、家庭や地域の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が土台となっている。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、家庭科教育をさらに充実・発展させていく必要性を感じている。そこで研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」とした。

宿泊学習で見つけた
住まいの工夫を共有
し、整理・分類



視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

●問題解決的な学習過程の工夫

生活の障壁発見 → 解決方法の検討と計画 → 課題解決に向けた実践活動 → 実践活動の評価・改善

「家族・家庭生活」についての課題と実践
解決的な学習過程

新たな課題・次の実践へ

II 研究構想

以下のように構想し、授業研究に取り組んだ。

研究のねらい

生活をよりよくするために、既習の知識及び技能や生活経験を基に日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究する。

目指す児童像

- 日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている子
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、工夫し解決する子
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子

見付け、身に付け、未来につなごう

研究の視点

児童の系統的な学びを支える指導計画 (カリキュラム・マネジメント)

- 育成を目指す資質・能力の明確化
- 各題材における基礎的・基本的な知識及び技能の明確化と題材配列の工夫
- 他教科等との関連を図った指導計画
- 小中5学年間を見通した指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 学習過程における学習指導の工夫
- 言語活動の充実
- ICTを活用した授業の工夫
- 実践的・体験的な活動の充実
- 個に応じた指導の充実

家庭や地域との連携・協働

- 家庭・地域との関わりを深めるための学習活動の充実
- 家族の一員として継続して実践する児童を育てる家庭連携の工夫
- 地域の人材や教材の開発

学びの成果を次の学習へとつなげる評価

- 資質・能力に沿った評価計画の作成
- 成長を実感できる評価の実施
- 児童の思考の過程を把握し、評価する方法の開発



Ⅲ 研究の内容

*公開授業

○令和4年10月12日(水) 武蔵野市
 第6学年「快適な住まい方を考えよう」
 ～B(6)「快適な住まい方」の指導の工夫～
 授業者 武蔵野市立桜野小学校 高嶋 智佳子 主任教諭
 講師 和洋女子大学総合研究機構家庭科教育研究所 工藤 由貴子先生

○令和4年11月18日(金) 練馬区
 第5学年「家族が喜ぶ食事をプロデュース」
 ～B(3)「栄養を考えた食事」の指導の工夫～
 授業者 練馬区立仲町小学校 佐藤 玲子 主任教諭
 寺島 智子 栄養教諭
 講師 元帝京大学大学院教職研究科 教授 小関 禮子先生

○令和4年12月7日(水) 北区
 第5学年「ミシンでソーイングⅡ」
 ～B(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」の指導の工夫～
 授業者 北区立田端小学校 北原 千咲 教諭
 講師 元帝京大学大学院教職研究科 教授 小関 禮子先生

*全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 京都大会にて地区発表

◇町田市公立小学校教育研究会家庭科部
 「家族のためのスペシャルウィーク」～家族の一員として～
 ～A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の指導の工夫～



住宅模型での検証活動



ICTの活用「家族が喜ぶ食事の献立をプロデュース」



布の合わせ方を比較して考える

Ⅳ 研究の成果と課題

1 本研究の成果

- 題材を通して重視する視点を適切に定め、目指す資質・能力を明確にして指導したことで、児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、学びの質を高めることができた。
- 実体験を想起させるための教材やICT教材を工夫することで、実践的・体験的な活動が充実し、児童は活発に学び合い、思考を広げ深める姿が見られた。

2 本研究の課題

- 児童の思考を支える知識（基礎・基本となる一般解など）を明確にした後に、「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた活動に取り組むようにする。
- 「A家族・家庭生活」と内容相互の関連がある題材については、題材の系統に位置付けるようにする。
- 学習評価について、評価方法を行動観察とした場合は、具体的な視点を明確にして見取るようにする。

<連絡先>

団体名		東京都公立小学校家庭科研究会
代表者	所属	大田区立赤松小学校
	職氏名	校長 飯島 典子
	連絡先	03-3729-0986
事務局	所属	文京区立青柳小学校
	職氏名	校長 村上 律子
	連絡先	03-3947-2471